

## 糖尿病治療の最前線

# 治療により改善する 認知症「正常圧水頭症」

正常圧水頭症を発症後、手術で回復に向かったKさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医  
院 院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	K・N様	年齢	73歳	性別	男性	現病歴	2型糖尿病
------	------	----	-----	----	----	-----	-------

**6**、7年前から糖尿病の治療をさ  
れているKさんは、2種類の飲  
み薬でヘモグロビンA<sub>1c</sub>を7〜7.5%  
にコントロールされておられます。これ  
といった合併症もありません。

しかし、3年ほど前から、つまず  
いたり転んだりすることが多くなった  
とおっしゃるようになり、私も気にな  
っていました。さらにここ1年く  
らいは、もの忘れがひどくなってき  
たというのです。

私は認知症を疑いました。糖尿病の  
人は、アルツハイマー病や血管性認知  
症の発症リスクが高いからです。そこ  
でCTスキャン検査などを受けていた  
だいたところ、正常圧水頭症という認  
知機能障害と診断されました。

正常圧水頭症とは、脳内の髄液ずいが何  
らかの原因で過剰にたまってしまい脳  
に障害を起こす病気です。症状として  
は、足のふらつき、認知機能の低下、尿  
失禁などがあげられます。Kさんがつ

まずいたり転びやすくなっていたの  
は、この病気の兆候だったのです。

アルツハイマー病は糖尿病との関連  
が深いとされていますが、正常圧水頭  
症の場合は高血糖が原因ではないよう  
です。従って、血糖値を正常にコント  
ロールしたからといって防げる訳では  
なく、今のところ予防策はありません。  
また、今までは他の認知症のよう  
に注目されていなかったため、診断・  
治療がなされないままになっているこ  
とも少なくありませんでした。

ただ、他の認知症と違い、治療で治す  
ことが可能です。そこで専門の病院に  
お願いし、たまった髄液を体内の他の  
所へ逃がすシャント手術を受けていた  
だきました。Kさんは現在、徐々に回  
復しつつある状態です。

正常圧水頭症は、60〜70歳代に多い  
病気です。年齢を重ね足のふらつき  
などを感じるようになったら、疑っ  
てみるべきかもしれません。